

中小企業景況調査報告書

令和2年4月～令和2年6月期実績 / 令和2年7月～9月期見通し

令和2年6月

宮崎県商工会連合会

中小企業景況調査要領

この調査は、商工会の経営改善普及事業の指導資料にするため、全国商工会連合会が中心となり、昭和54年度から四半期ごとに全国一斉に実施しているものです。本県分の調査結果は次のとおりです。

1. 調査対象期間

令和2年4月～令和2年6月期を対象とし、調査は令和2年5月22日から6月1日の間に実施しました。なお、令和2年7月～9月期は予測値となります。

2. 調査方法

商工会の経営指導員による訪問面接調査により実施。

3. 対象地区

宮崎市生目、中郷、北郷町、高崎町、すき、国富町、木城町、川南町、諸塚村、日之影町の10商工会地区。

4. 回答企業数

150企業のうち、138企業の回答を得た(有効回答率92.0%)。

業 種	調査対象企業数(%:構成比)	有効回答企業数(%:構成比)	有効回答率(%)
製 造 業	32 21.3%	29 21.0%	90.6%
建 設 業	24 16.0%	22 15.9%	91.7%
小 売 業	43 28.7%	40 29.0%	93.0%
サービ業	51 34.0%	47 34.1%	92.2%
合 計	150 100.0%	138 100.0%	92.0%

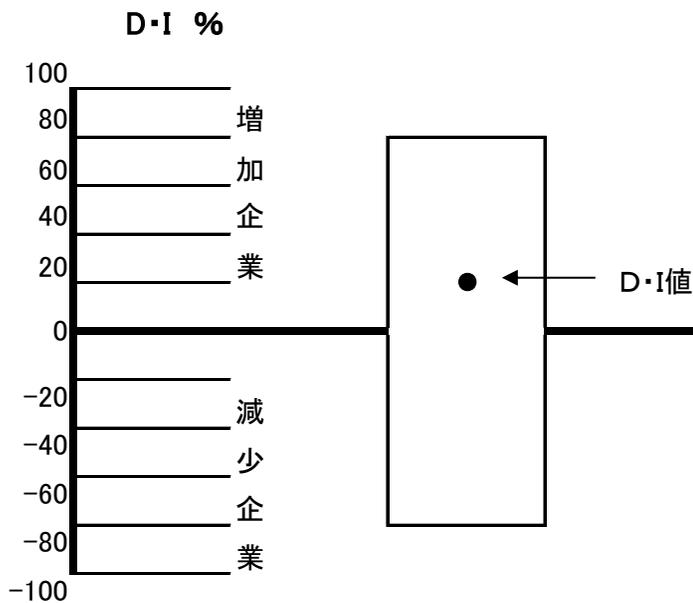
5. その他

(1) D-I

この報告書の中で、「D・I」とある記号は、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略です。これは企業経営者の景気動向を表わす指標として利用されています。算出方法は、今期と前期、今期と前年同期、あるいは今期と来期「見通し」との比較を行い、増加(上昇・好転)企業の割合から減少(低下・悪化)企業等の割合を差し引いたものです。D・Iがプラスなら強気(楽観)、マイナスなら弱気(悲観) 原材料又は商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

例えば、売上高で(増加)企業40%、(不変)企業40%、(減少)企業20%の場合、D・Iは40(増加)－20(減少)＝20となり、全体として経営者の売上に対する強気の度合いを表わしています。

グラフで示すと下のようになります。



(2) 天気図

D・I値をお天気マークで表示

D・I値	特に好調 $30 \leq DI$	好 調 $15 \leq DI < 30$	まあまあ $0 \leq DI < 15$	やや不振 $\Delta 15 \leq DI < 0$	不 振 $\Delta 30 \leq DI < \Delta 15$	きわめて不振 $DI \leq \Delta 30$
表示						
	晴	晴時々曇	うす曇	曇	曇時々雨	雨

I 全産業全体の状況

主要景気動向指数(D・I)

項目	令和1年	令和1年	令和1年	令和2年	令和2年	令和2年
	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月
	前年同期	前々々期	前々期	前期	今期	来期見通し
売上高	▲13.9	▲10.4	▲11.4	▲20.2	▲57.8	▲37.0
採算	▲3.1	▲16.2	▲13.6	▲23.0	▲50.2	▲50.4
資金繰り	▲5.5	▲9.3	▲9.0	▲13.3	▲39.0	▲32.7
業況	▲7.6	▲12.4	▲9.5	▲19.0	▲53.8	▲33.9

いずれも前年同期と比較したもの。

<主要景況項目の概況>

◎売上高

今期(令和2年4月～令和2年6月)の売上高のD・Iは、▲57.8ポイントとなって、直前四半期の▲20.2ポイントより更に悪化した。全ての業種で悪化した。来期については▲37.0ポイントと今期からは改善を見込んでいる。

◎採算

採算のD・Iは、▲50.2ポイントとなっており、直前四半期の▲23.0ポイントより悪化している。小売業で改善傾向を見せたが、製造業、建設業、サービス業では大幅に悪化している。来期については、▲50.4ポイントと当期とほぼ横ばいである。

◎資金繰り

資金繰りのD・Iは、▲39.0ポイントで、直前四半期から大幅に悪化した。全ての業種で悪化した。来期について、全体で▲32.7ポイントであり、当期より改善を見込んでいる。

◎業況

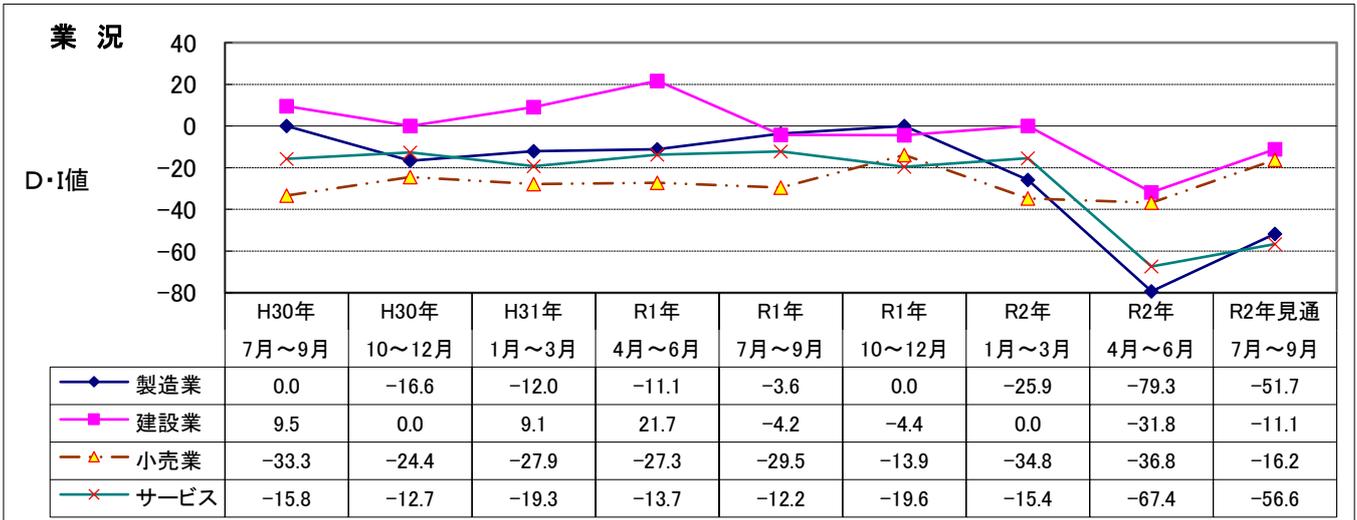
業況のD・Iは、▲53.8ポイントで、前期に比べて大幅に悪化している。来期は▲33.9ポイントと改善を見込んでいる。

内閣府の令和2年6月発表の月例経済報告では、「景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、極めて厳しい状況にあるが、下げ止まりつつある。先行きについては、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを段階的に引き上げていくなかで、各種政策の効果もあって、極めて厳しい状況から持ち直しに向かうことが期待される。ただし、国内外の感染症の動向や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。」としており、景気の最悪期は脱したとしている。日本銀行宮崎事務所の6月5日付の宮崎県金融経済概況では、「宮崎県の景気は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、厳しさを増している。」としており、基調判断としては、下方修正している。本調査でも、県内中小・小規模事業者の景況感は今期大きく落ち込んでいるが、緊急事態宣言の解除、県境を越えた往来の解禁などにより、来期以降は改善を見込んでいるところである。

製造業	売上、採算、資金繰りの全てで悪化という結果となった。次期の見通しは、売上、採算、資金繰りの全てで当期より改善を見込んでいる。
建設業	完成工事額、採算、資金繰りの全てで悪化という結果になった。次期の見通しは、完成工事額は当期より改善を見込んでいるが、採算と資金繰りは悪化を見込んでいる。
小売業	売上と資金繰りは悪化、採算は改善という結果となった。次期は売上、採算、資金繰りの全てで改善を見込んでいる。
サービス業	売上、採算、資金繰りの全てで悪化という結果となった。次期の見通しは、売上、採算、資金繰りの全てで当期より改善を見込んでいる。

〈経営上の問題点について〉

製造業、建設業、小売業、サービス業の全てで、「需要の停滞」が1位となった。消費税率引き上げの影響が見られる中、新型コロナウイルス感染症対策のための、政府による全国一斉の緊急事態宣言、県境を越えた往來の自粛により経済活動が縮小し、需要が急減したところである。緊急事態宣言は解除され、定額給付金や持続化給付金等の施策は実施されているが、需要の戻りは鈍く、今後も資金繰り難に陥る中小・小規模事業者が急増することが懸念されるところである。

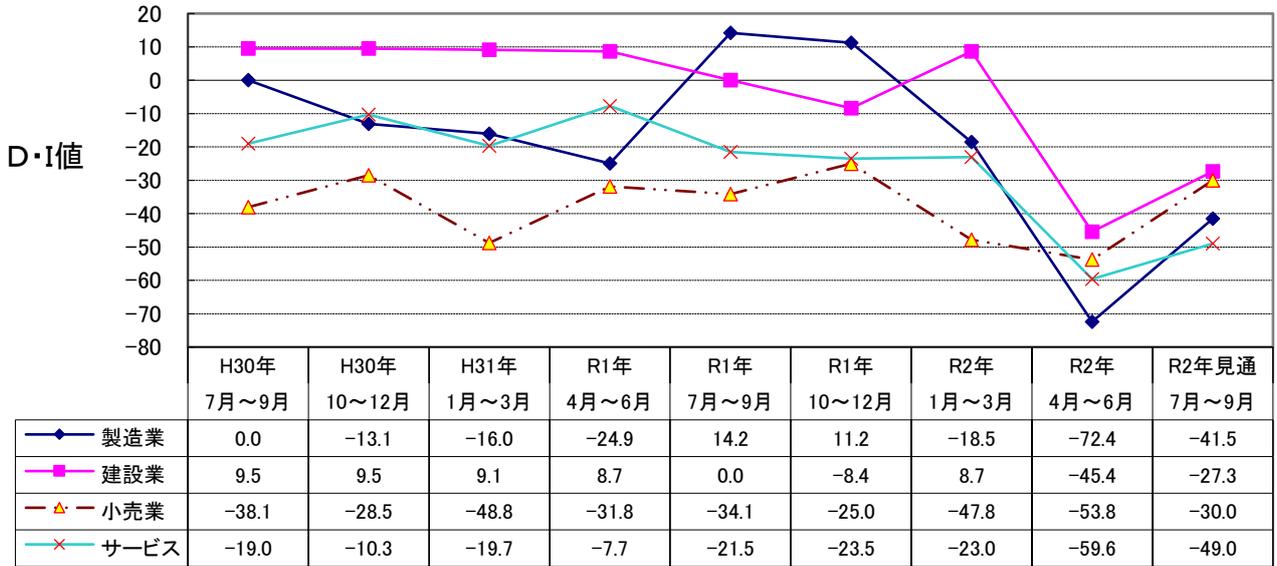


(業況天気図)

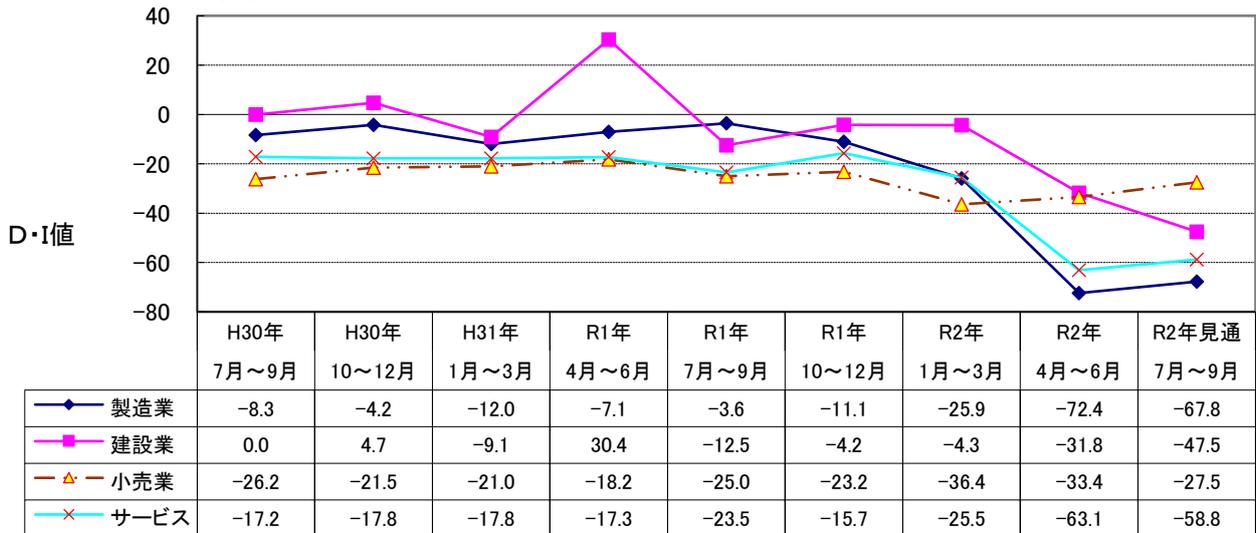
業種別	製造業	建設業	小売業	サービス業
4月から6月 実績	雨	雨	雨	雨
D・I値	▲ 79.3	▲ 31.8	▲ 36.8	▲ 67.4
7月から9月 見通し	雨	曇	曇時々雨	雨
D・I値	▲ 51.7	▲ 11.1	▲ 16.2	▲ 56.6
傾向	↗	→	↘	→

(注) 好転 ↗ 横ばい → 悪化 ↘

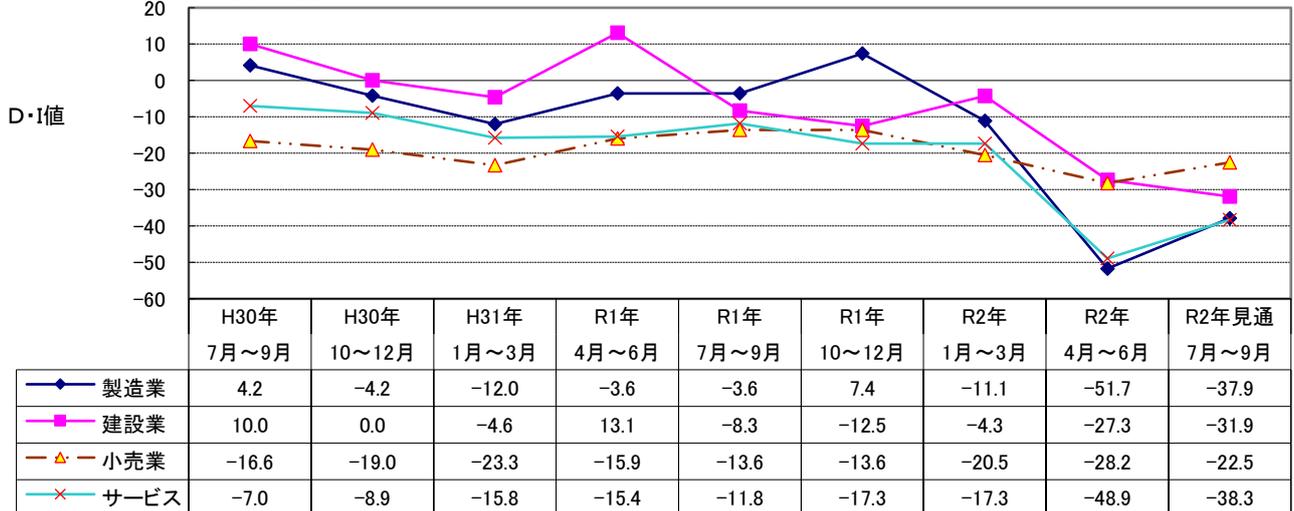
売上額(加工・完成)の推移



採算の推移(経常利益)



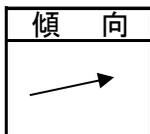
資金繰り



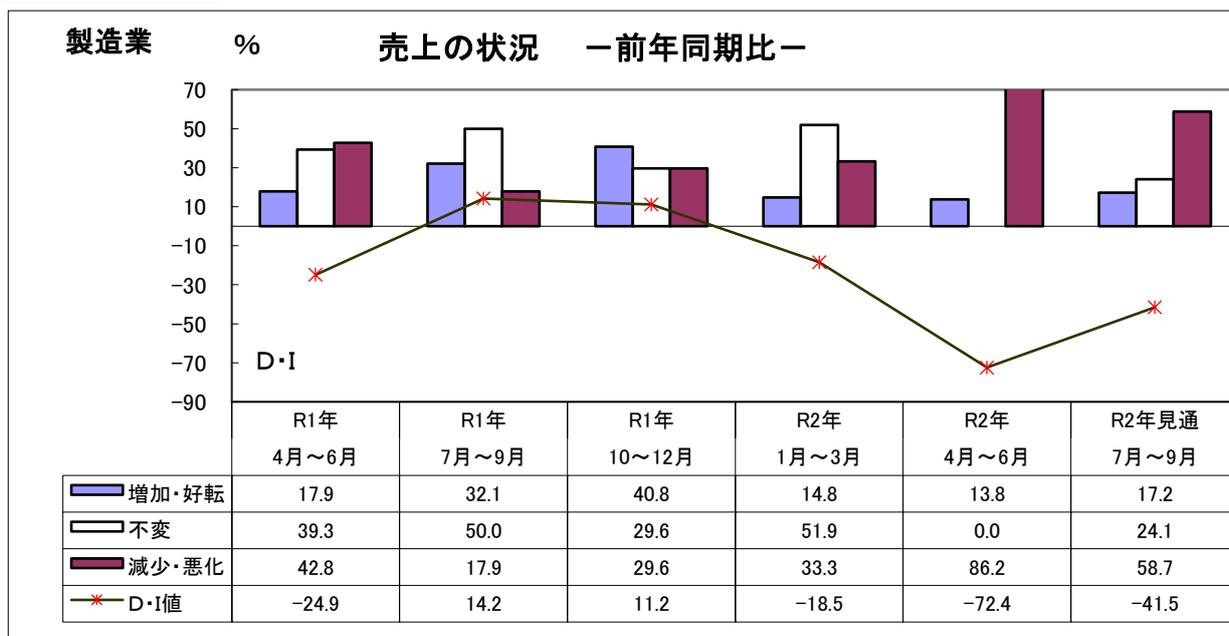
Ⅱ 製造業の景況

(1) 売上(加工)額の推移

2年4月～6月 (実績)	2年7月～9月 (見通し)
	
雨	雨
▲ 72.4	▲ 41.5

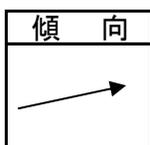


当期の売上高のD・Iは、「増加・好転」とする企業が減少し、「減少・悪化」の企業が増加したため、D・Iは-72.4ポイントと、前期と比べて大幅に悪化した。次の四半期は「増加・好転」の企業が増加し、「減少・悪化」の企業が減少するため、D・Iは当期より改善を見込んでいる。

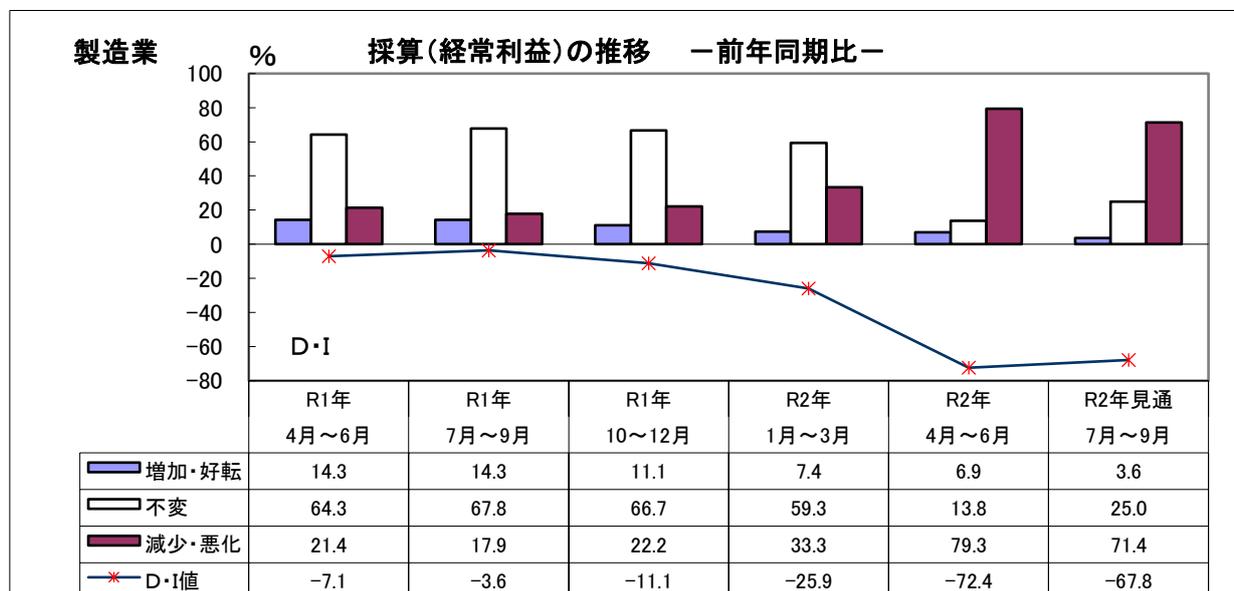


(2) 採算(経常利益)の推移

2年4月～6月 (実績)	2年7月～9月 (見通し)
	
雨	雨
▲ 72.4	▲ 67.8

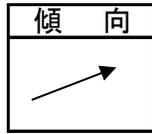


当期の採算のD・Iは、-72.4ポイントで、直前四半期の数値から大幅に悪化した。「増加・好転」の企業が減少し、「減少・悪化」の企業が増加したためである。次の四半期は「増加・好転」の企業は減少するが、「減少・悪化」の企業も減少するため、当期からは改善する予想となっている。

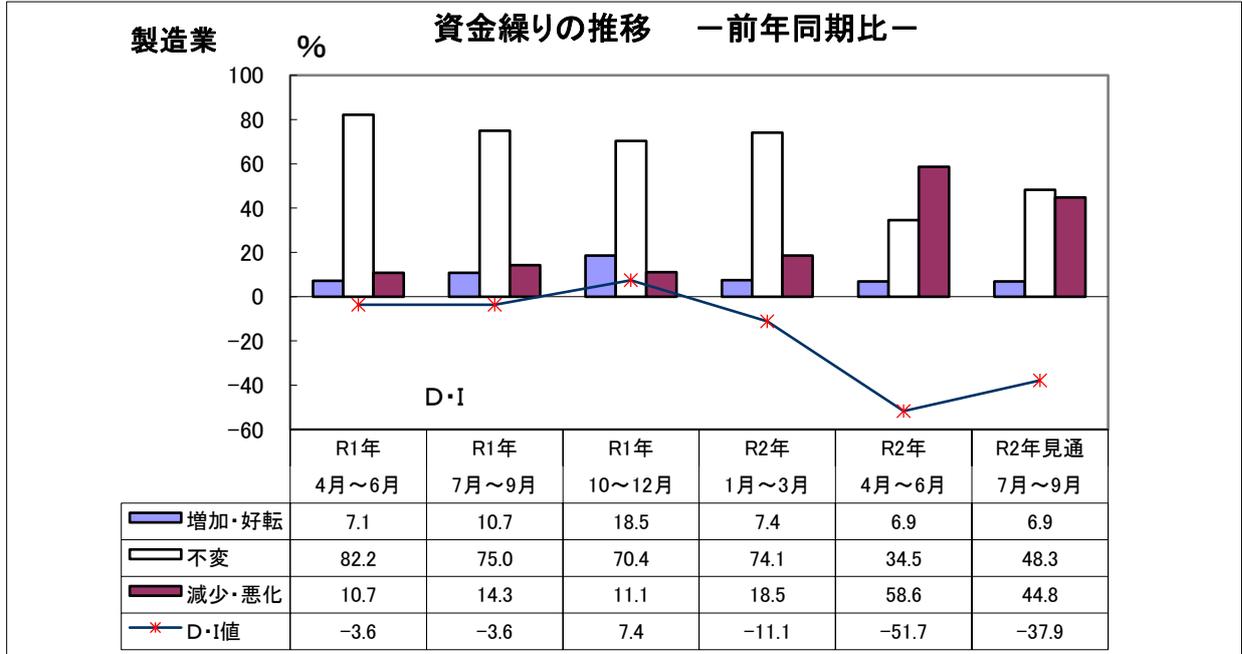


(3) 資金繰りの推移

2年4月～6月 (実績)	2年7月～9月 (見通し)
	
雨	雨
▲ 51.7	▲ 37.9

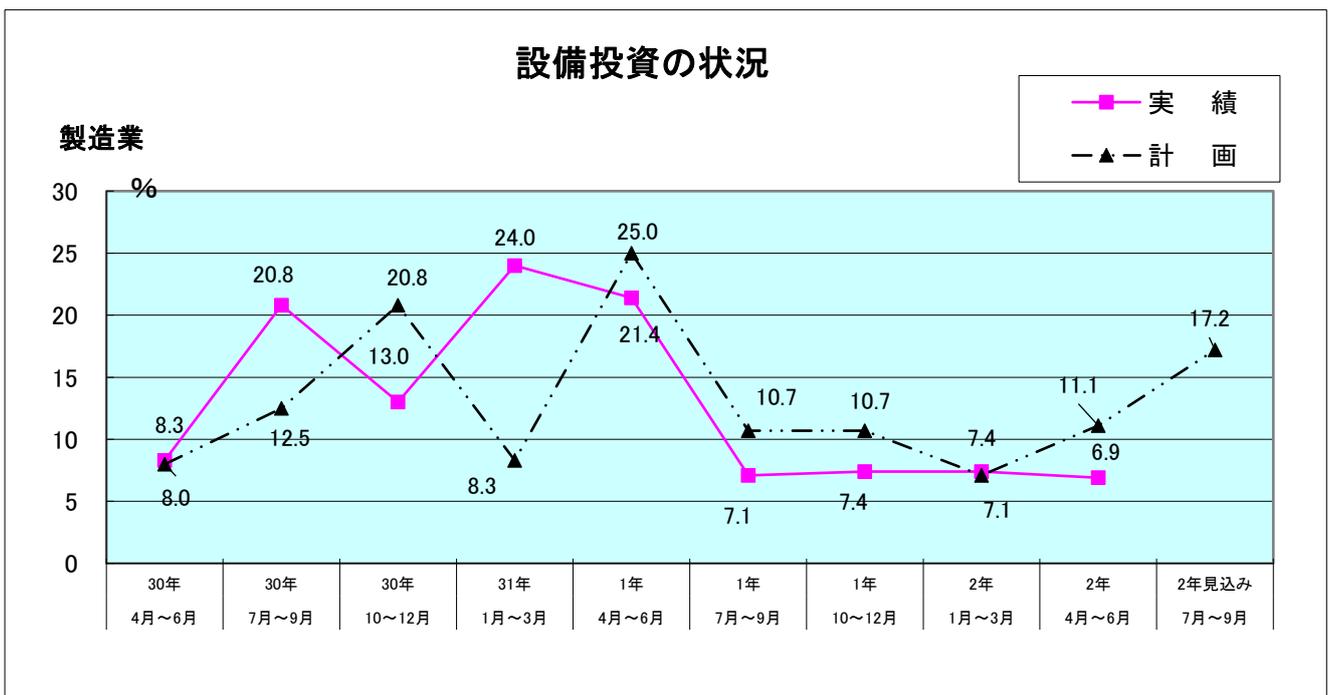


当期の資金繰りのD・Iは、-51.7ポイントとなり、前期より大幅に悪化した。「増加・好転」の企業が減少し、「減少・悪化」の企業が増加したためである。次の四半期については、「増加・好転」の企業は当期と同じであるが、「減少・悪化」の企業が減少するため、資金繰りのD・Iは、当期よりは改善を見込んでいる。



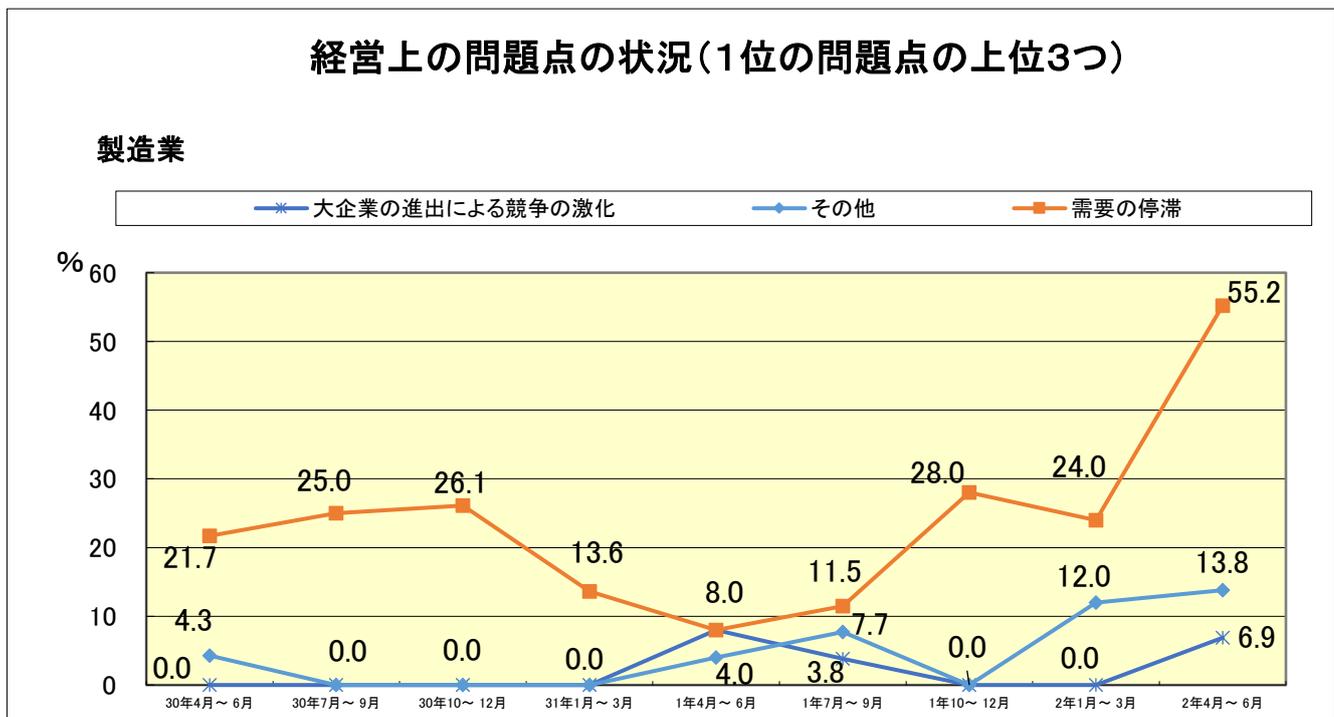
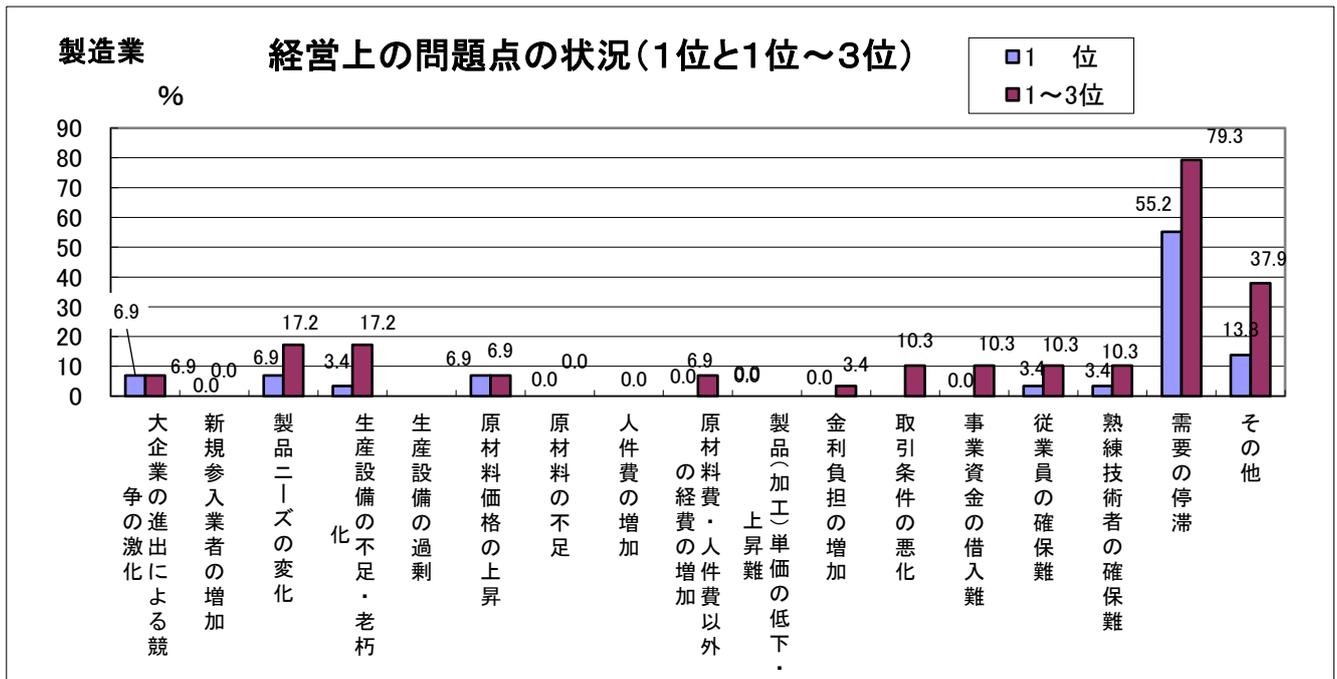
(4) 設備投資の推移

当期の設備投資計画は11.1%の企業が実施の意向を見せていたが、実績は6.9%となり、実績は計画を下回った。
次の四半期は17.2%の企業が計画している。内容は土地、工場建物、生産設備等となっている。



(5) 経営上の問題点

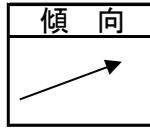
経営上の問題点について回答を求めたところ、(1位グループ)の合計で多かったのは、1位が「需要の停滞」となり、2位が「その他」、3位が同率で「製品ニーズの変化」、「大企業の進出による競争の激化」、「原材料価格の上昇」となっている。(1位～3位グループ)では、1位が「需要の停滞」、2位が「その他」、3位が同率で「製品ニーズの変化」、「生産設備の不足・老朽化」となった。今回の調査でも1位グループ、1位～3位グループともに需要の停滞が1位となった。



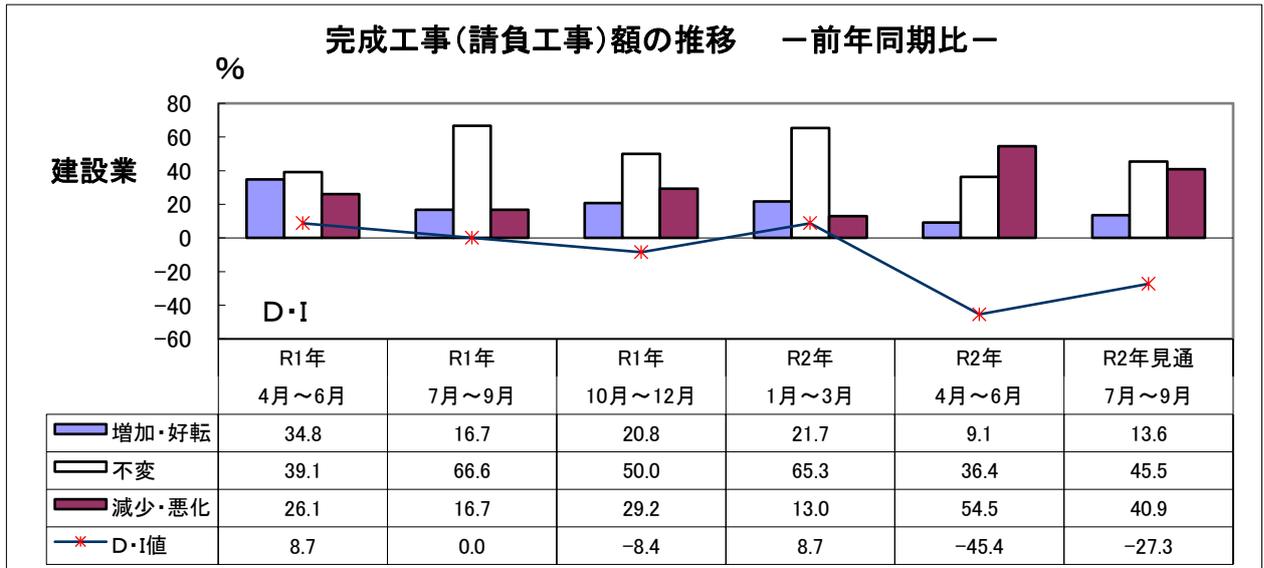
Ⅲ 建設業の景況

(1) 完成工事額の推移

2年4月～6月 (実績)	2年7月～9月 (見通し)
	
雨	曇時々雨
▲ 45.4	▲ 27.3

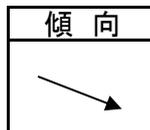


当期の完成工事額のD・Iは、-45.4ポイントとなり、前期から大幅に悪化した。「増加・好転」とする企業が減少し、「減少・悪化」とする企業が増加したためである。次の四半期については、「増加・好転」の企業が増加し、「減少・悪化」の企業が減少するため、完成工事額のD・Iは、当期より改善し、-27.3ポイントとなっている。

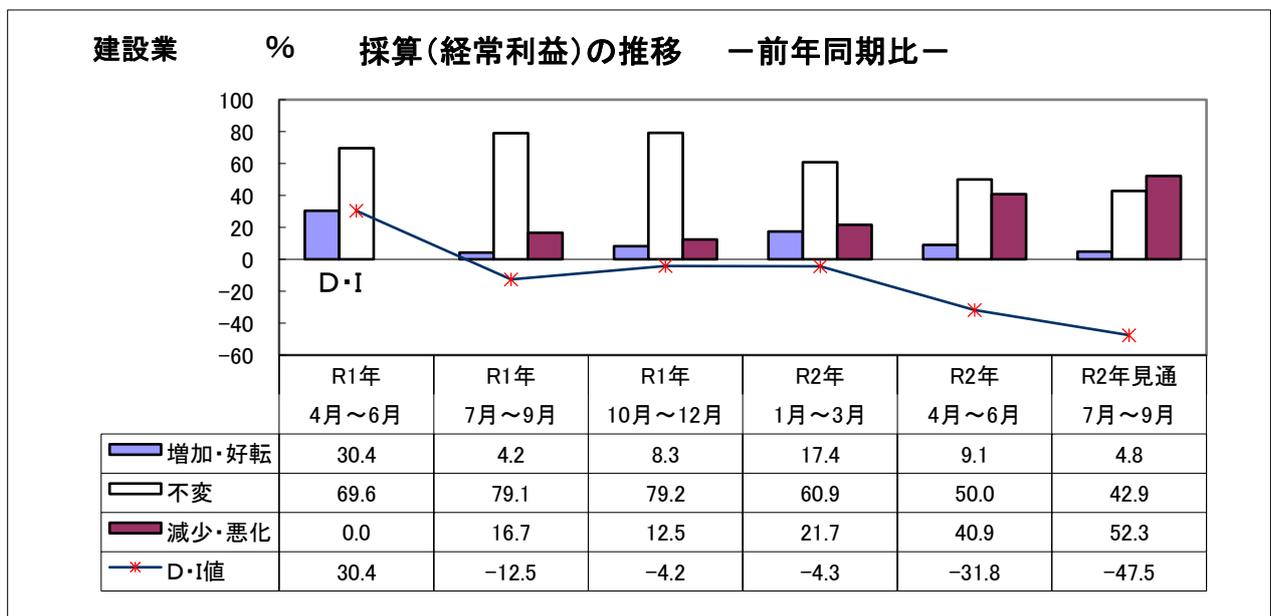


(2) 採算(経常利益)の推移

2年4月～6月 (実績)	2年7月～9月 (見通し)
	
雨	雨
▲ 31.8	▲ 47.5

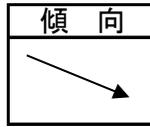


当期の採算のD・Iは、-31.8ポイントであった。前期から大幅に悪化した。「増加・好転」とする企業が減少し、「減少・悪化」とする企業が増加したためである。次の四半期は、「増加・好転」とする企業が増加し、「減少・悪化」とする企業が増加するため、D・Iは、当期よりも悪化し、-47.5ポイントとなっている。

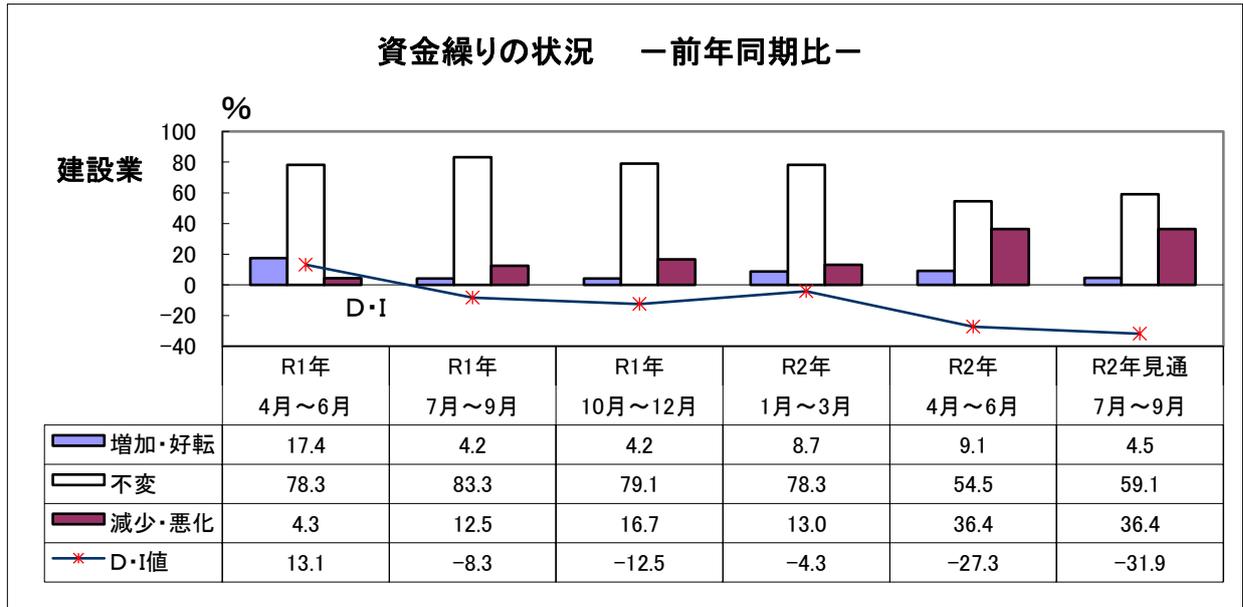


(3) 資金繰りの推移

2年4月～6月 (実績)	2年7月～9月 (見通し)
	
曇時々雨	雨
▲ 27.3	▲ 31.9

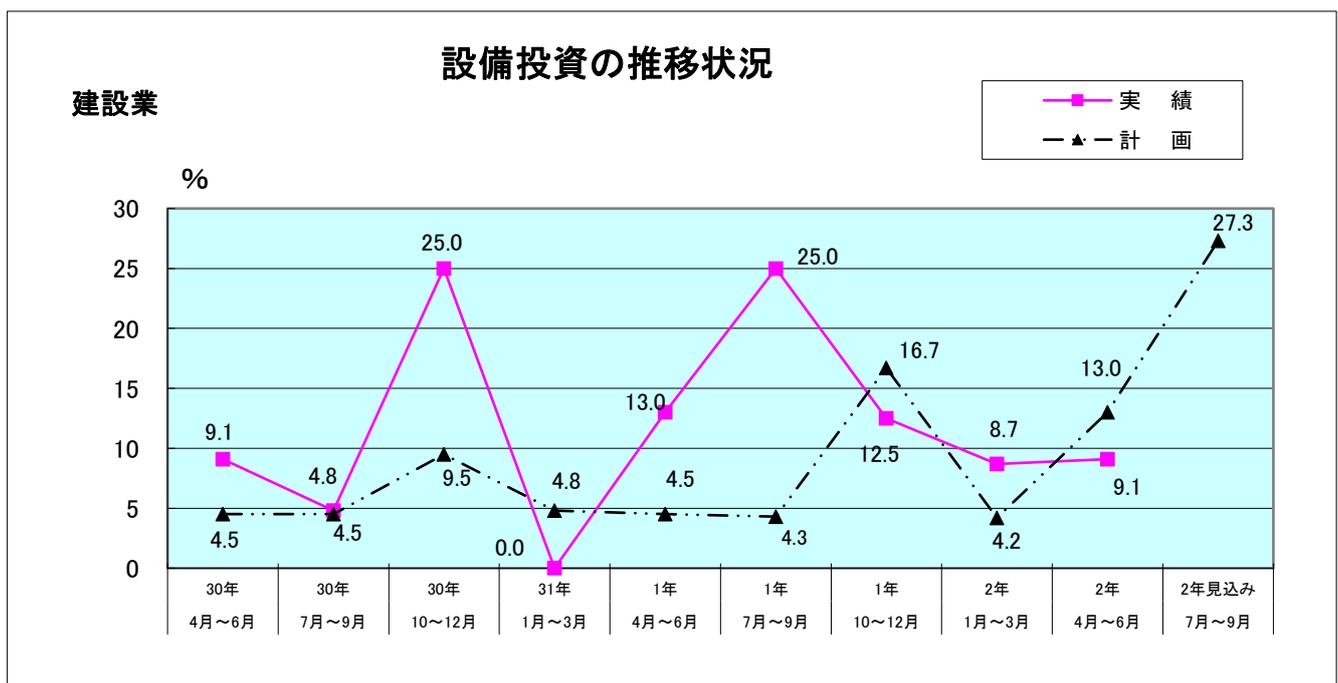


資金繰りのD・Iは-27.3ポイントと、前期より悪化する結果となった。「増加・好転」とする企業はほぼ横ばいであったが、「減少・悪化」とする企業が増加したためである。次の四半期については、「増加・好転」とする企業が減少し、「減少・悪化」とする企業が当期と同じであるため、D・Iは、-31.9ポイントと悪化を見込んでいる。



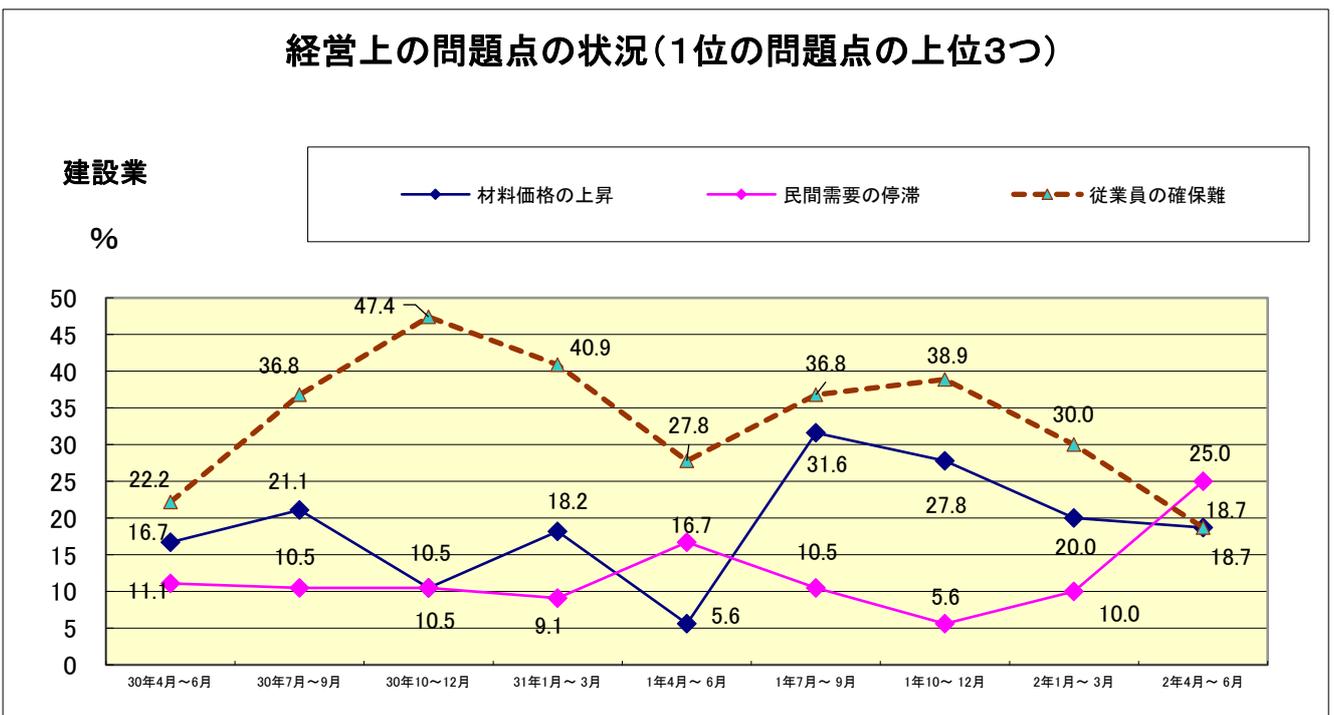
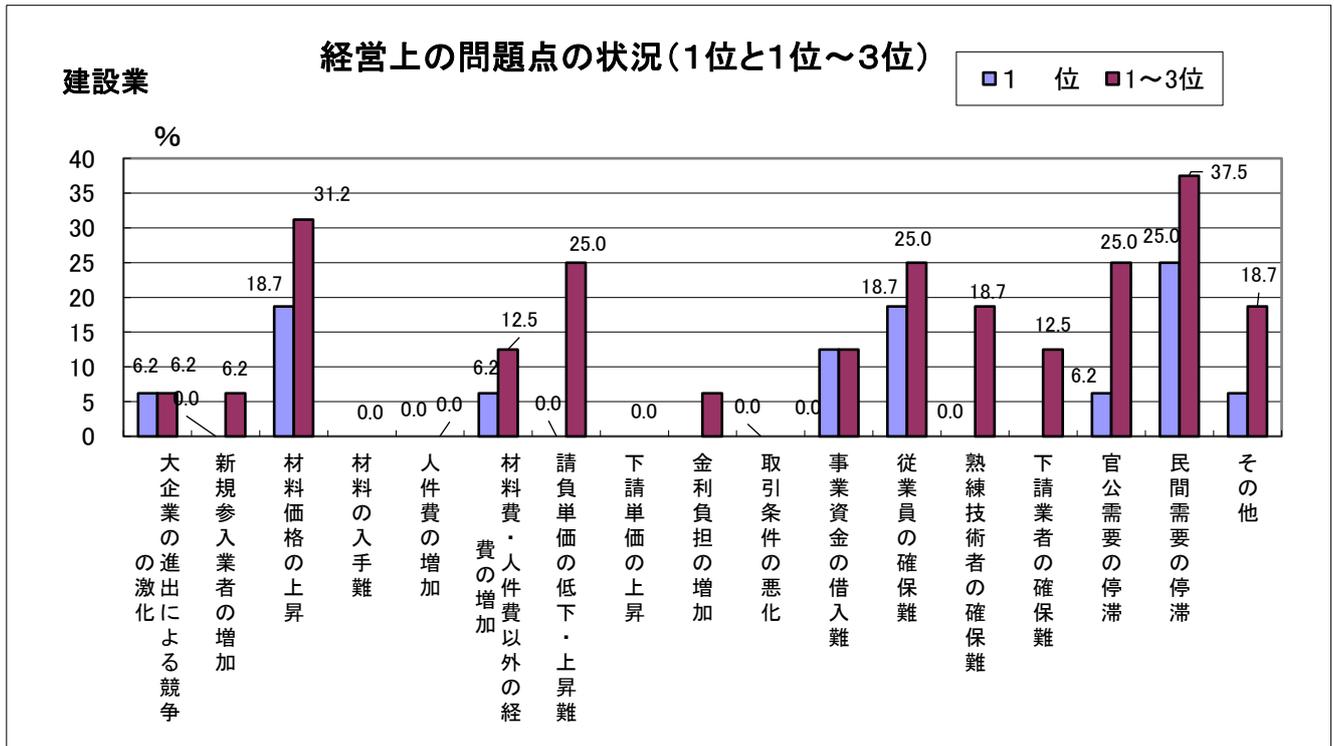
(4) 設備投資の推移

当期の設備投資計画は13.0%であったが、実際に投資を行った企業は9.1%であった。次の四半期に設備投資を計画している企業は27.3%という結果となっている。投資対象は建物、建設機械、車両運搬具となっている。



(5) 経営上の問題点

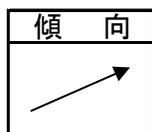
経営上の問題点について、(1位グループ)で回答が多かったのは、1位が「民間需要の停滞」、2位が同率で「材料価格の上昇」、「従業員の確保難」となった。民間需要の停滞が1位となっている。(1位～3位グループ)では、1位が、「民間需要の停滞」、2位「材料価格の上昇」、3位が同率で「官公需要の停滞」、「従業員の確保難」、「請負単価の低下・上昇難」であった。建設業においても、新型コロナウイルス感染症の影響により需要の停滞が1位となっている。



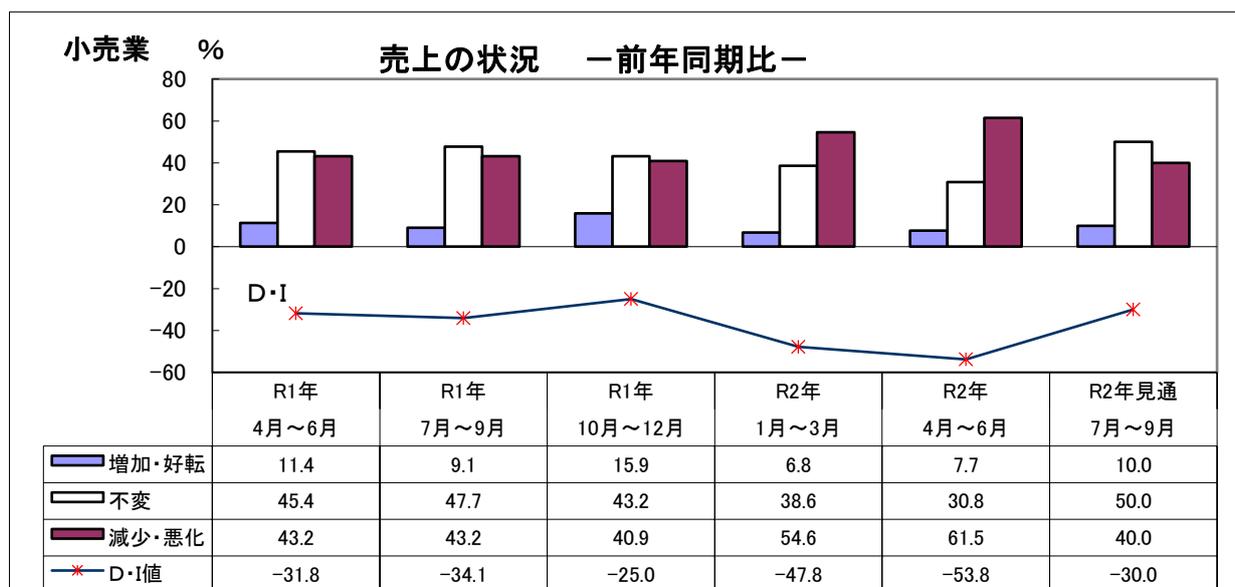
IV 小売業の景況

(1) 売上額の推移

2年4月～6月 (実績)	2年7月～9月 (見通し)
	
雨	雨
▲ 53.8	▲ 30.0



当期の売上のD・Iは-53.8ポイントで、直前期の-47.8ポイントよりさらに悪化した。「増加・好転」とする企業は若干増加したが、「減少・悪化」とする企業が増加したためである。客単価が悪化している。次の四半期は「増加・好転」の企業が増加し、「減少・悪化」の企業が減少するため、D・Iは水面下であるが改善を見込んでいる。

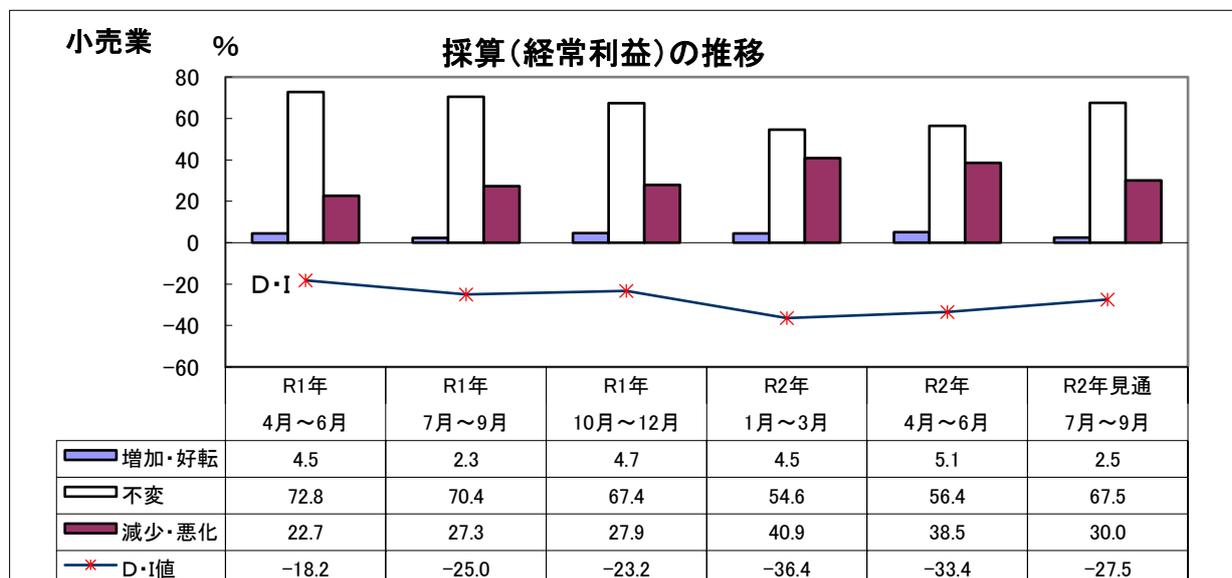


(2) 採算(経常利益)の推移

2年4月～6月 (実績)	2年7月～9月 (見通し)
	
雨	曇時々雨
▲ 33.4	▲ 27.5

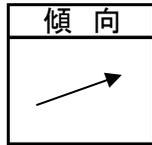


当期の採算のD・Iは-33.4ポイントで、前期より改善した。「増加・好転」とする企業はほぼ横ばいであったが、「減少・悪化」とする企業が減少したためである。次の四半期は「増加・好転」の企業が減少するが、「減少・悪化」とする企業も減少するため、D・Iは水面下であるが当期より改善を見込んでいる。

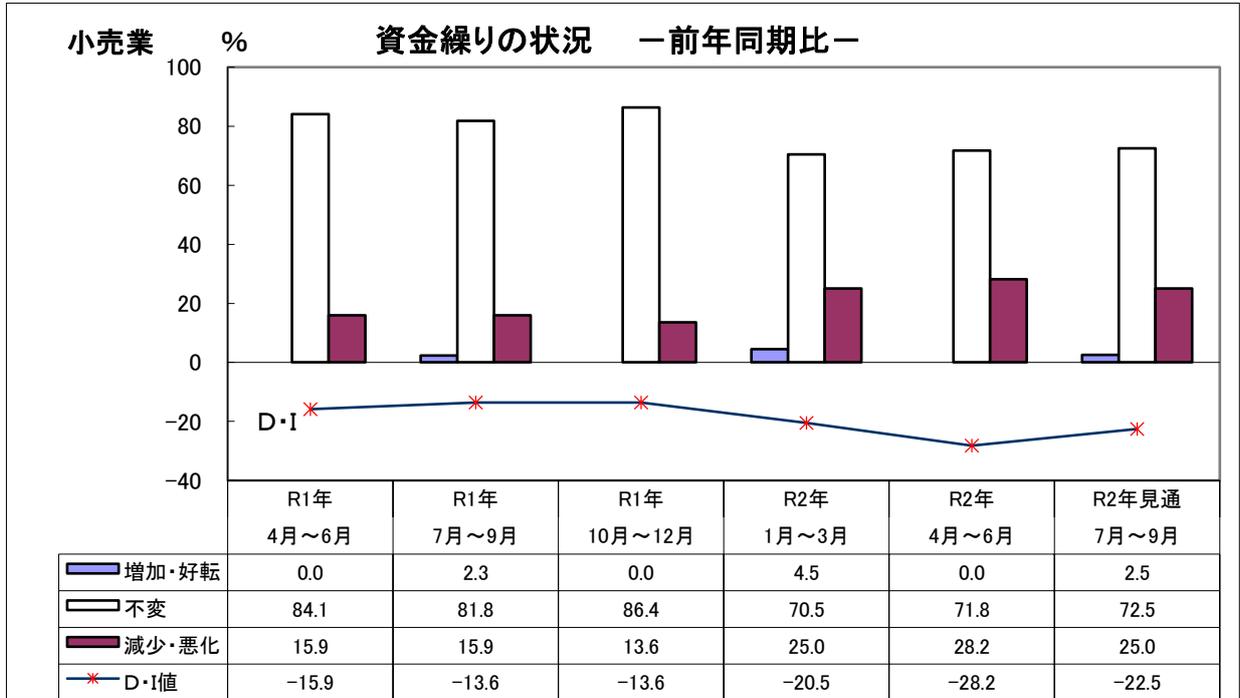


(3) 資金繰りの推移

2年4月～6月 (実績)	2年7月～9月 (見通し)
	
曇時々雨	曇時々雨
▲ 28.2	▲ 22.5



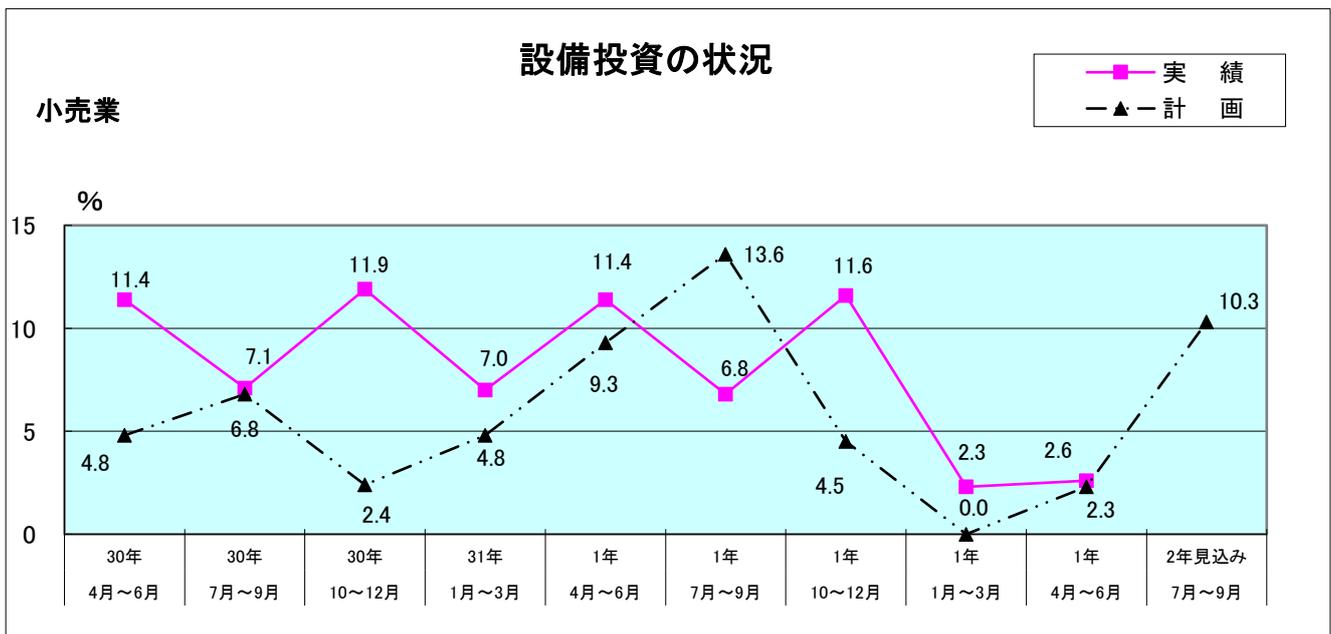
当期の資金繰りのD・Iは-28.2ポイントで、直前期から悪化した。「増加・好転」とする企業が減少し、「減少・悪化」とする企業が増加したためである。次期四半期は「増加・好転」の企業が増加し、「減少・悪化」の企業が減少するため、D・Iは水面下ではあるが、当期より改善を見込んでいる。



(4) 設備投資の推移

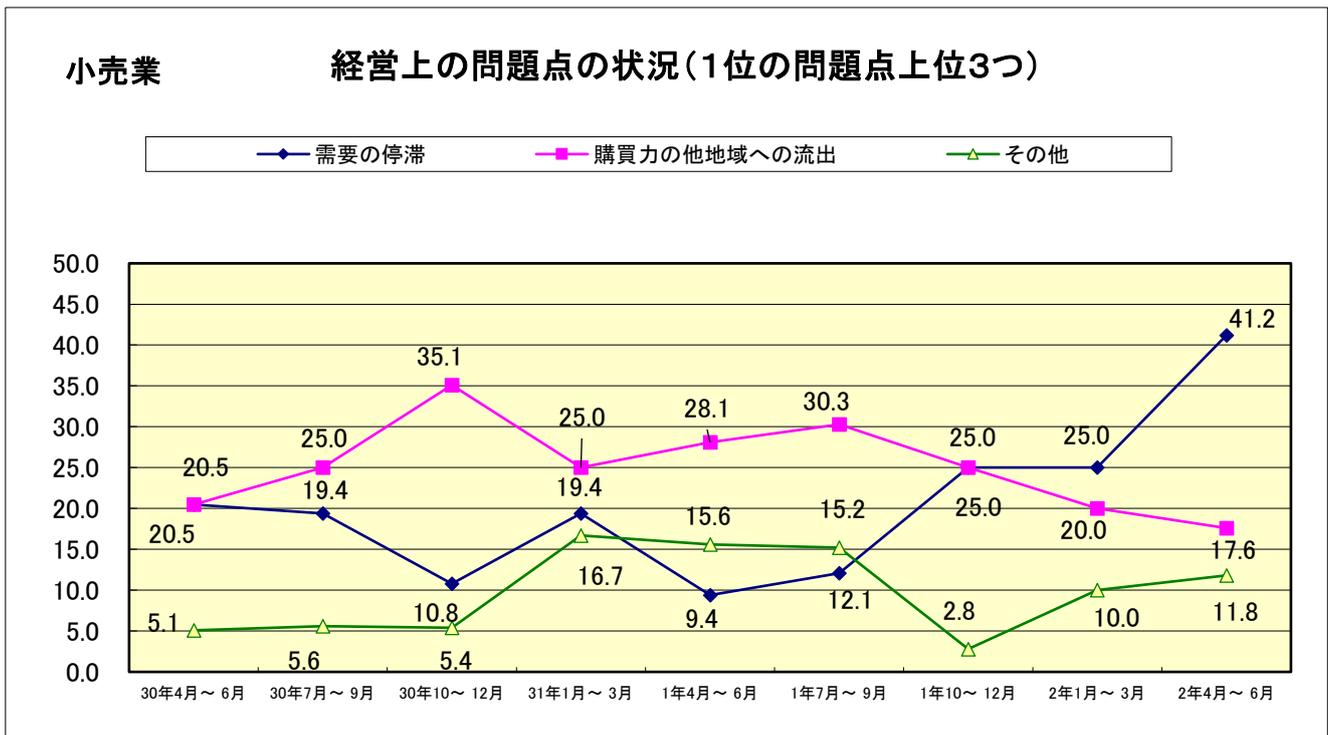
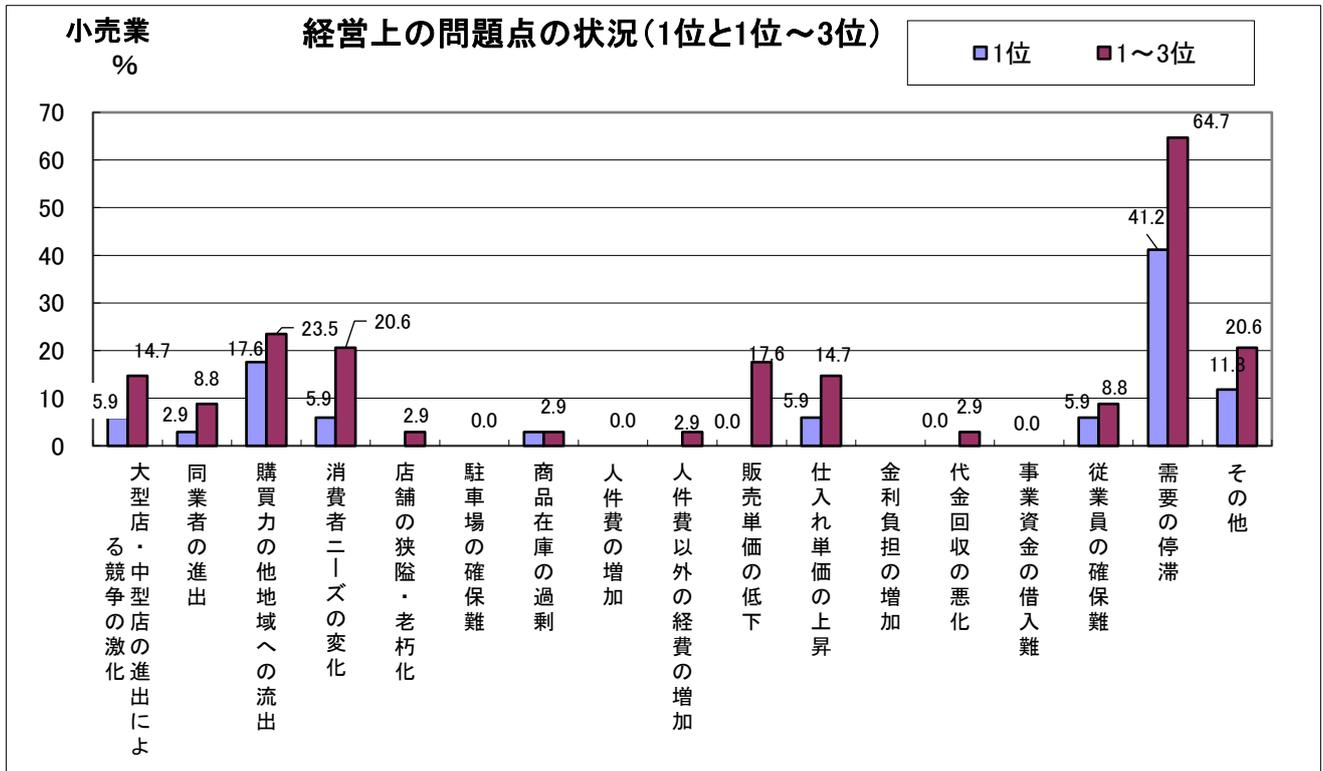
設備投資は2.3%の企業が計画し、実際に実施した企業は2.6%となった。投資対象はOA機器となっている。

次の四半期の見通しは、設備投資を計画している企業は10.3%となっている。



(5) 経営上の問題点

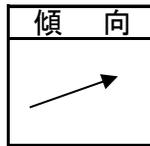
経営上の問題点について、回答が多かったのは、(1位グループ)では、1位が「需要の停滞」、2位が「購買力の他地域への流出」、3位が「その他」であった。(1位から3位グループ)では、1位が「需要の停滞」、2位が「購買力の他地域への流出」、3位が同率で「消費者ニーズの変化」、「その他」であった。新型コロナウイルス感染症の影響による経済活動自粛により需要の停滞が圧倒的な1位となった。



V サービス業の景況

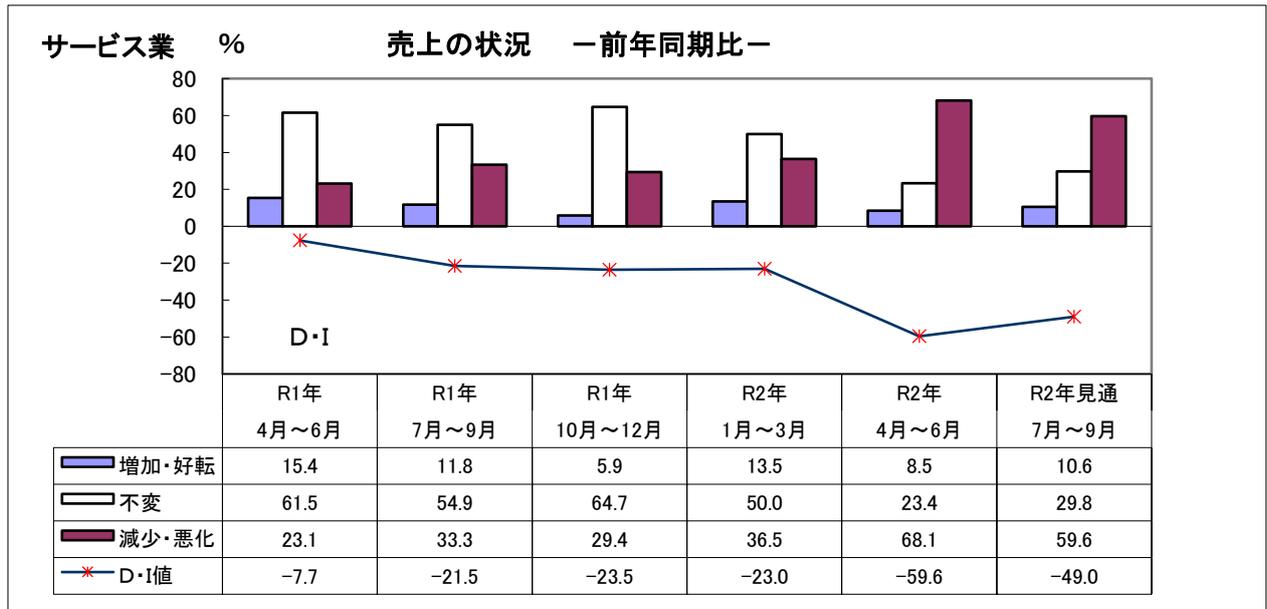
(1) 売上額の推移

2年4月～6月 (実績)	2年7月～9月 (見通し)
	
雨	雨
▲ 59.6	▲ 49.0



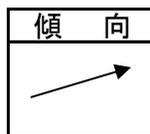
当期の売上のD・Iは、-59.6ポイントと前期より大幅に悪化した。「増加・好転」の企業が減少し、「減少・悪化」の企業が増加したためである。客単価、利用客数ともに悪化している。

次の四半期は「増加・好転」の企業が増加し、「減少・悪化」の企業が減少するため、D・Iは水面下ではあるが当期より改善傾向を示している。

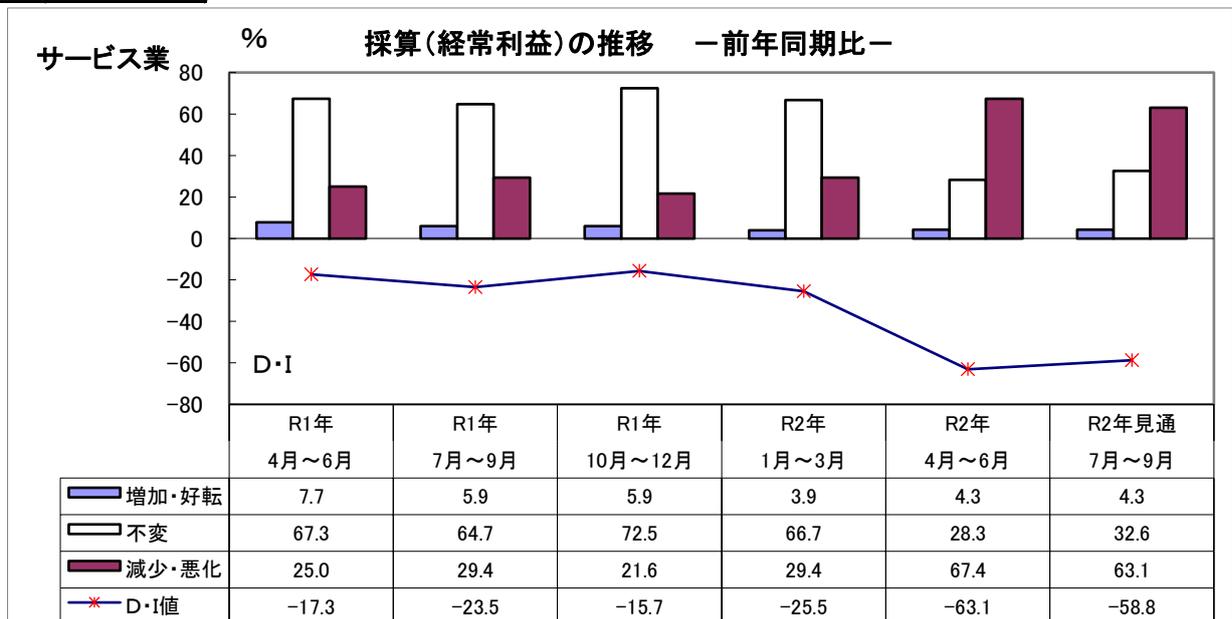


(2) 採算(経常利益)の推移

2年4月～6月 (実績)	2年7月～9月 (見通し)
	
雨	雨
▲ 63.1	▲ 58.8

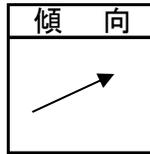


当期の採算のD・Iは、-63.1ポイントで、前期より大幅に悪化した。「増加・好転」の企業は前期とほぼ横ばいで、「減少・悪化」の企業が大幅に増加したためである。次の四半期は「増加・好転」の企業は当期と同じであるが、「減少・悪化」の企業が減少するため、D・Iは水面下ではあるが、当期より改善する見込みとなっている。

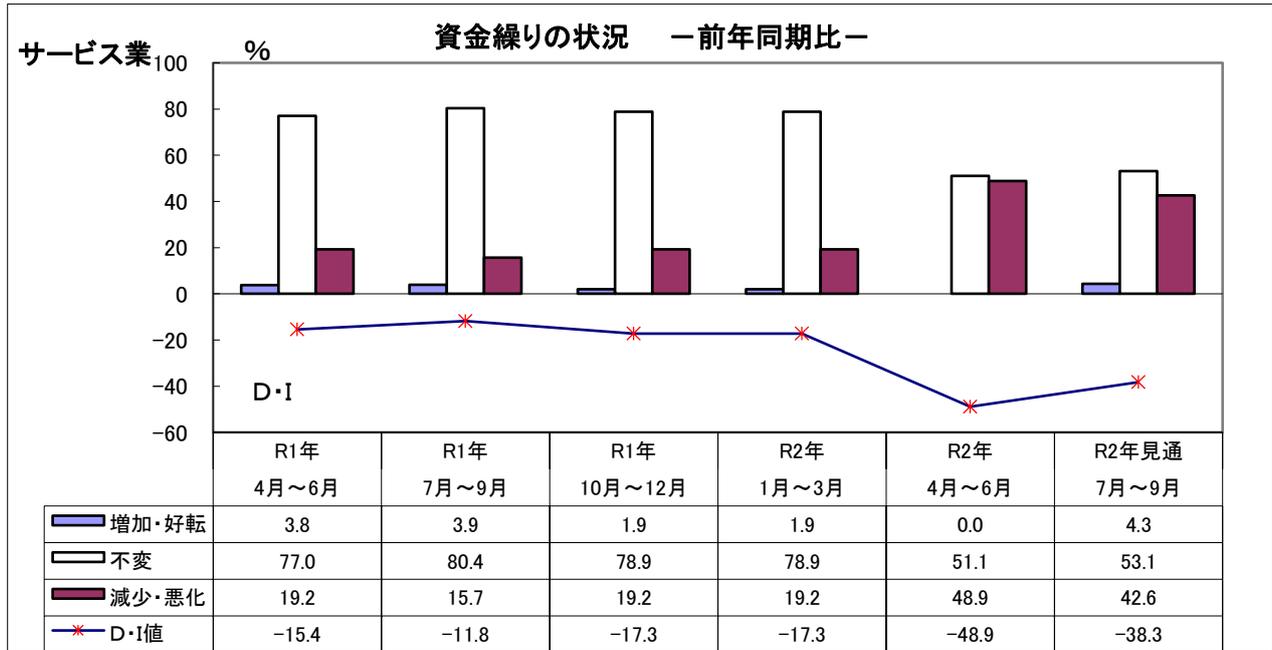


(3) 資金繰りの推移

2年4月～6月 (実績)	2年7月～9月 (見通し)
	
▲ 48.9	▲ 38.3

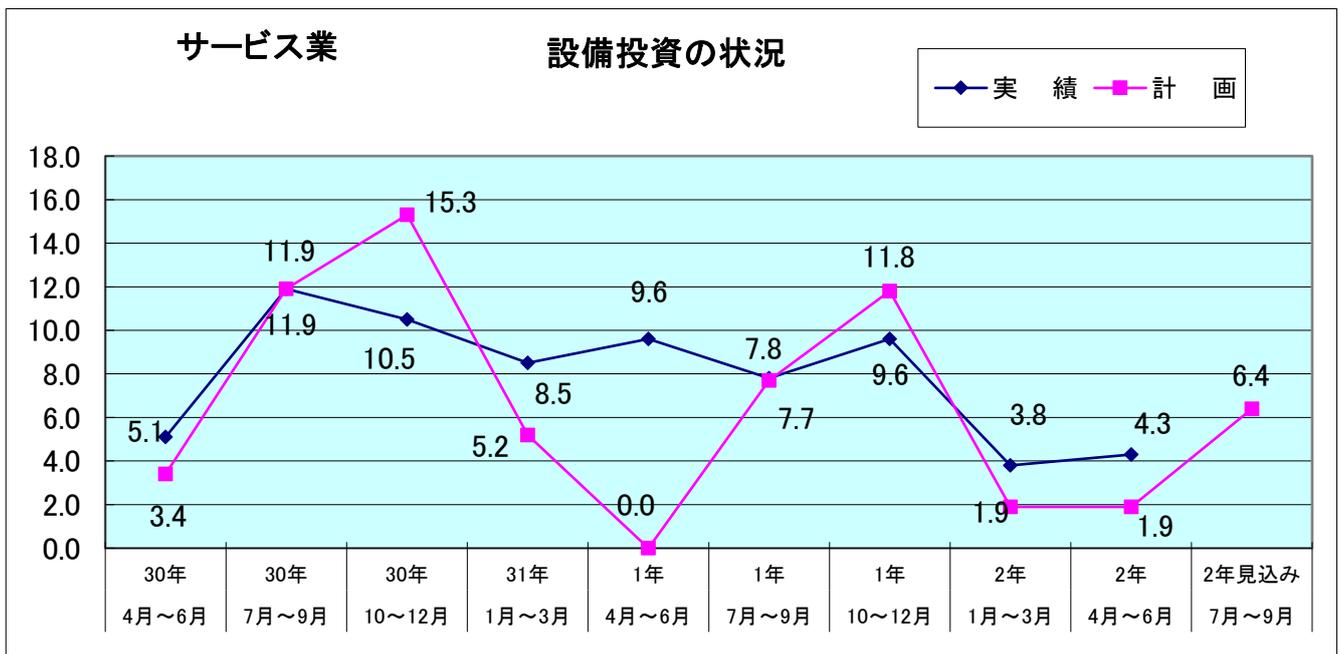


当期の資金繰りのD・Iは、-48.9ポイントと前期から大幅に悪化した。「増加・好転」とする企業が0.0となり、「減少・悪化」とする企業が大幅に増加したためである。次の四半期は「増加・好転」の企業が増加し、「減少・悪化」の企業が減少するため、資金繰りのD・Iは、水面下であるものの当期より改善する。



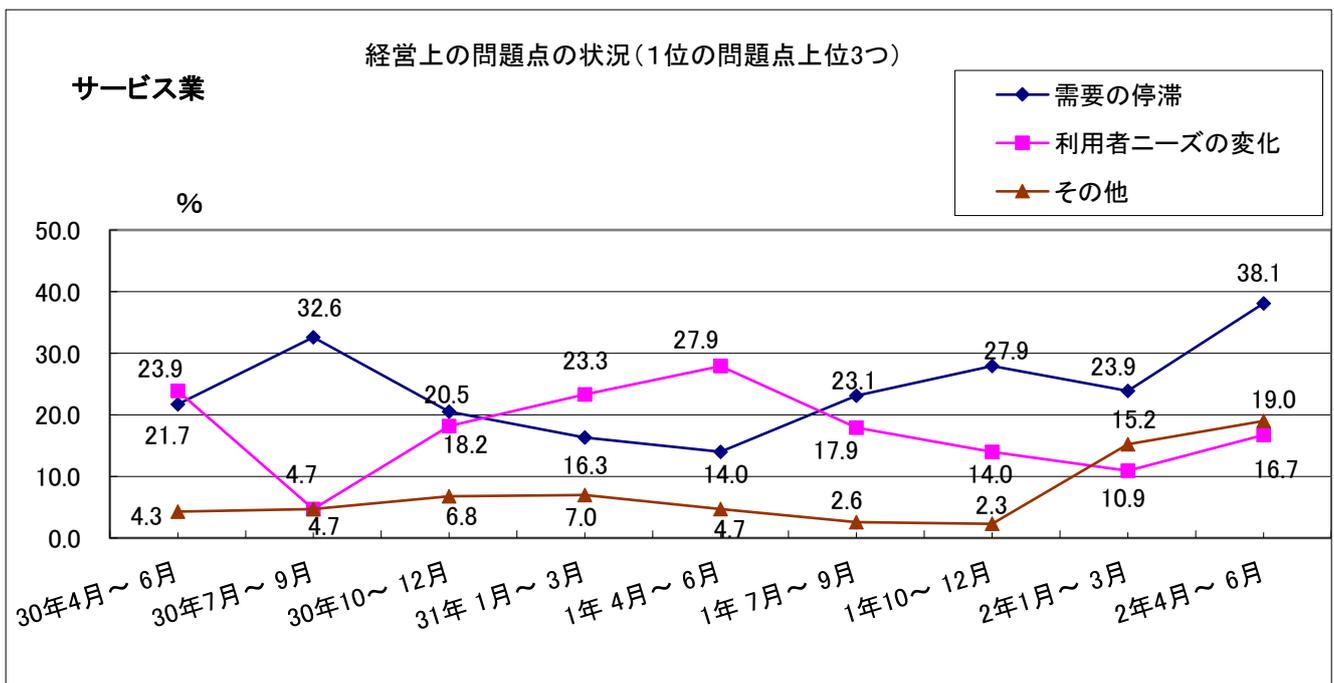
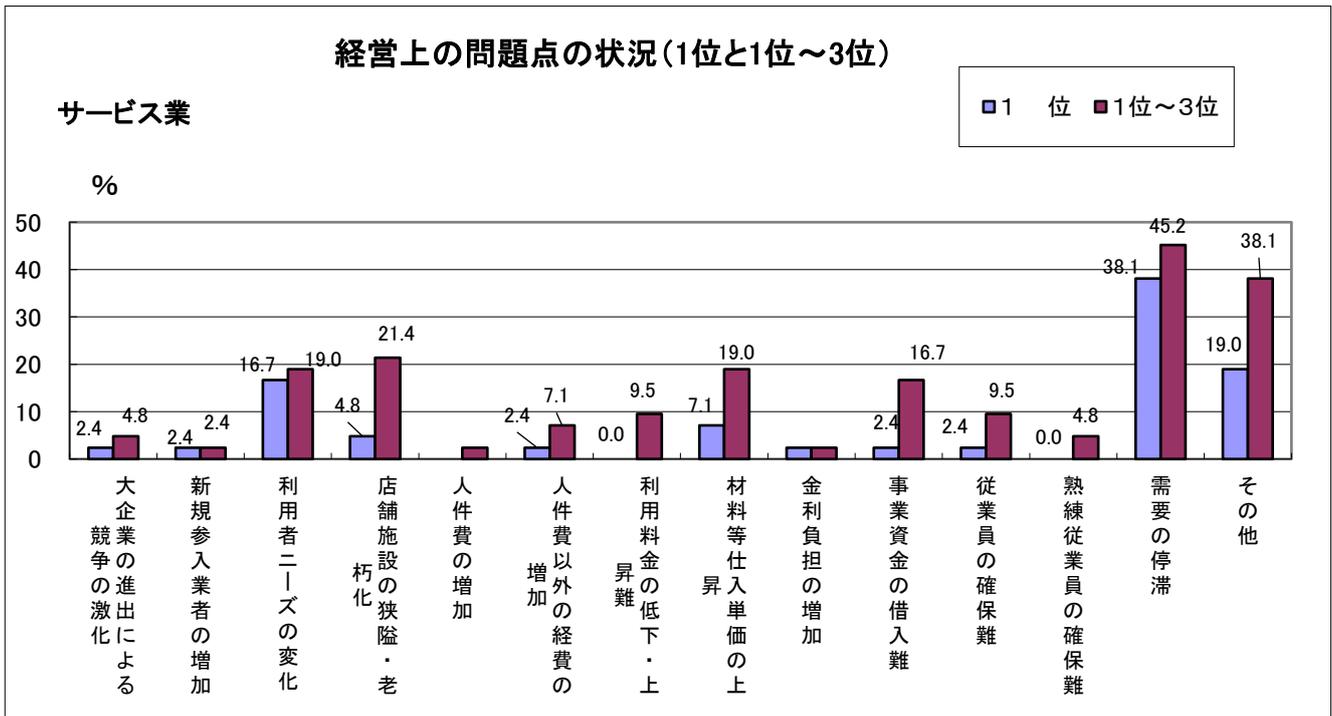
(4) 設備投資の推移

当期は、設備投資を計画していた企業は1.9%であったが、計画を上回る4.3%の企業が実施した。内容は土地、その他となっている。次の四半期に設備投資を計画している企業は、6.4%との結果となっている。



(5) 経営上の問題点

経営上の問題点(1位グループ)で、回答が多かったものは1位が「需要の停滞」で、2位が「その他」、3位が「利用者ニーズの変化」となっている。(1位から3位グループ)では、1位が「需要の停滞」、2位が「その他」、3位が「店舗施設の狭隘・老朽化」となっており、(1位グループ)と同様、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて「需要の停滞」が1位となっている。



産業別主要景況項目状況

宮崎県商工会連合会

業種			実績				見通し	
			令和1年 4月～6月	令和1年 7月～9月	令和1年 10月～12月	令和2年 1月～3月	令和2年 4月～6月	令和2年 7月～9月
製造業	売上(加工)額	増加・好転	17.9	32.1	40.8	14.8	13.8	17.2
		不変	39.3	50.0	29.6	51.9	0.0	24.1
		減少・悪化	42.8	17.9	29.6	33.3	86.2	58.7
		D・I値	▲ 24.9	▲ 14.2	▲ 11.2	▲ 18.5	▲ 72.4	▲ 41.5
	採算(経常利益)	増加・好転	14.3	14.3	11.1	7.4	6.9	3.6
		不変	64.3	67.8	66.7	59.3	13.8	25.0
		減少・悪化	21.4	17.9	22.2	33.3	79.3	71.4
		D・I値	▲ 7.1	▲ 3.6	▲ 11.1	▲ 25.9	▲ 72.4	▲ 67.8
	資金繰り	増加・好転	7.1	10.7	18.5	7.4	6.9	6.9
		不変	82.2	75.0	70.4	74.1	34.5	48.3
		減少・悪化	10.7	14.3	11.1	18.5	58.6	44.8
		D・I値	▲ 3.6	▲ 3.6	7.4	▲ 11.1	▲ 51.7	▲ 37.9
設備投資	計画	25.0	10.7	10.7	7.1	11.1	17.2	
	実行	21.4	7.1	7.4	7.4	6.9		
建設業	完成工事(請負工事)額	増加・好転	34.8	16.7	20.8	21.7	9.1	13.6
		不変	39.1	66.6	50.0	65.3	36.4	45.5
		減少・悪化	26.1	16.7	29.2	13.0	54.5	40.9
		D・I値	8.7	0.0	▲ 8.4	8.7	▲ 45.4	▲ 27.3
	採算(経常利益)	増加・好転	30.4	4.2	8.3	17.4	9.1	4.8
		不変	69.6	79.1	79.2	60.9	50.0	42.9
		減少・悪化	0.0	16.7	12.5	21.7	40.9	52.3
		D・I値	30.4	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 4.3	▲ 31.8	▲ 47.5
	資金繰り	増加・好転	17.4	4.2	4.2	8.7	9.1	4.5
		不変	78.3	83.3	79.1	78.3	54.5	59.1
		減少・悪化	4.3	12.5	16.7	13.0	36.4	36.4
		D・I値	13.1	▲ 8.3	▲ 12.5	▲ 4.3	▲ 27.3	▲ 31.9
設備投資	計画	4.5	4.3	16.7	4.2	13.0	27.3	
	実行	13.0	25.0	12.5	8.7	9.1		
小売業	売上額	増加・好転	11.4	9.1	15.9	6.8	7.7	10.0
		不変	45.4	47.7	43.2	38.6	30.8	50.0
		減少・悪化	43.2	43.2	40.9	54.6	61.5	40.0
		D・I値	▲ 31.8	▲ 34.1	▲ 25.0	▲ 47.8	▲ 53.8	▲ 30.0
	採算(経常利益)	増加・好転	4.5	2.3	4.7	4.5	5.1	2.5
		不変	72.8	70.4	67.4	54.6	56.4	67.5
		減少・悪化	22.7	27.3	27.9	40.9	38.5	30.0
		D・I値	▲ 18.2	▲ 25.0	▲ 23.2	▲ 36.4	▲ 33.4	▲ 27.5
	資金繰り	増加・好転	0.0	2.3	0.0	4.5	0.0	2.5
		不変	84.1	81.8	86.4	70.5	71.8	72.5
		減少・悪化	15.9	15.9	13.6	25.0	28.2	25.0
		D・I値	▲ 15.9	▲ 13.6	▲ 13.6	▲ 20.5	▲ 28.2	▲ 22.5
設備投資	計画	9.3	13.6	4.5	0.0	2.3	10.3	
	実行	11.4	6.8	11.6	2.3	2.6		
サービス業	売上額	増加・好転	15.4	11.8	5.9	13.5	8.5	10.6
		不変	61.5	54.9	64.7	50.0	23.4	29.8
		減少・悪化	23.1	33.3	29.4	36.5	68.1	59.6
		D・I値	▲ 7.7	▲ 21.5	▲ 23.5	▲ 23.0	▲ 59.6	▲ 49.0
	採算(経常利益)	増加・好転	7.7	5.9	5.9	3.9	4.3	4.3
		不変	67.3	64.7	72.5	66.7	28.3	32.6
		減少・悪化	25.0	29.4	21.6	29.4	67.4	63.1
		D・I値	▲ 17.3	▲ 23.5	▲ 15.7	▲ 25.5	▲ 63.1	▲ 58.8
	資金繰り	増加・好転	3.8	3.9	1.9	1.9	0.0	4.3
		不変	77.0	80.4	78.9	78.9	51.1	53.1
		減少・悪化	19.2	15.7	19.2	19.2	48.9	42.6
		D・I値	▲ 15.4	▲ 11.8	▲ 17.3	▲ 17.3	▲ 48.9	▲ 38.3
設備投資	計画	0.0	7.7	11.8	1.9	1.9	6.4	
	実行	9.6	7.8	9.6	3.8	4.3		
産業全体	売上高		▲ 13.9	▲ 10.4	▲ 11.4	▲ 20.2	▲ 57.8	▲ 37.0
	採算		▲ 3.1	▲ 16.2	▲ 13.6	▲ 23.0	▲ 50.2	▲ 50.4
	資金繰り		▲ 5.5	▲ 9.3	▲ 9.0	▲ 13.3	▲ 39.0	▲ 32.7
	業況		▲ 7.6	▲ 12.4	▲ 9.5	▲ 19.0	▲ 53.8	▲ 33.9

中小企業景況調査報告書

令和2年6月発行

宮崎県商工会連合会

〒880-0013

宮崎市松橋2丁目4番31号

宮崎県中小企業会館2階

TEL 0985-24-2055(代表)

FAX 0985-25-0036